

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591100031		
法人名	特定非営利活動法人 ひまわり		
事業所名	(NPO)グループホームひまわり		
所在地	山口県長門市油谷伊上字中上り野2238番		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町受理日	平成30年7月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年1月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いや希望に沿った生活支援を働きかけ、穏やかであり、生き甲斐や喜び、楽しみを見いだせるように努めている。またADLの維持や向上するように日々働きかけている。その中で利用者と職員が共に食事を作ったり食器を片付けたりとGHの特性を生かしつつ利用者間、利用者と職員との信頼関係の構築に当たっている。また介護職、看護師とが密に情報を共有し、協力医との連携を図ることで病状の早期回復に努める。慰問の受け入れも積極的に行ったり、外出行事も定期的に行い、利用者が楽しいと思える生活の提供に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

内部研修は、年間計画を立てられ、講義に加えて、ケア場面を利用したグループワークやロールプレイングなど、討議や実技等を採り入れた研修内容にされて実施しておられ、職員一人ひとりが考えることや全員で話し合うことを大切にされ、研修での学びが、日々のサービスの向上に結びつくよう取り組んでおられます。接遇やプライバシーを損ねない言葉づかいや対応の仕方は、この研修をとおして、職員は自分のものとして獲得され、利用者が自然体で暮らせるようケアに活かしておられます。毎日、モニタリングを実施され、目標の達成状況や変化に対応するようにしておられます。利用者のADLを維持、向上できるよう利用者一人ひとりの思いやできること、趣味、得意なことを活かされて、毎日の運動やレクリエーション、暮らしの中での役割、楽しみごとを検討され、利用者にとって張り合いのある毎日が過ごせるよう取り組んでおられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、人権とニーズを尊重し生活の場としての環境を整え、生活の向上に日々努めている。 その理念を玄関に掲示し、いつでも見ることができるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員の入職時には理念について説明をしている他、ケースカンファレンス時に話し合って確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体や福祉協議会の祭りに参加している。また、地域福祉民生委員等や地域の方のボランティアにより事業所の行事を解放的なものにするとともに、地域福祉民生委員等の施設見学など視察を受け入れている。	自治会に加入し、自治会からの回覧や自治会長の来訪時に地域の情報を得て、地域行事に参加している。地域の春の祭りや秋にある福祉祭りには利用者と職員と一緒に参加し、利用者の手づくり作品(貼り絵や紙細工等)を毎年出展している。ボランティア(フォークギター、楽器演奏、貼り絵、押し花、抹茶、法話)の来訪があり、交流している。散歩時には地域の人と挨拶を交わし、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。中学生の職場体験や民生委員の研修を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事、等に参加して交流するとともに、社会福祉協議会の福祉まつりに作品を出品したり、地域福祉民生委員等の施設見学の視察を受け入れている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義や自己評価について全職員が認識し、その上で現状の支援サービスについて意識付けを図るために、自己評価用紙を配布したり聴き取りにより意見を考察している。	管理者は、職員に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布して、提出してもらい、項目毎の内容について、職員一人ひとりの感じ方や考え方を確認した後に、管理者がまとめている。職員は、自己評価を、日々のケアの振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、自己評価に全職員で取り組み、外部研修への参加機会を確保するなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、市介護保険課職員、自治会長、地域住民、民生委員、福祉委員、職員等で定期的に開催し、状況報告、行事報告、利用者や家族の要望等について話し合っている。 その内容の記録を簡潔にしないでボイスレコードに録音し詳細に残すようにしている。	会議は年6回開催している。利用者の状況や行事内容の報告を行い、時宜に応じた勉強会（インフルエンザなど）をした後、話し合いをしている。家族からの要望で利用者が好む食材の紹介があり、そこでの意見をサービス向上に活かすように取り組んでいる。	・運営推進会議を活かす工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課と相談や情報交換をしている。また運営推進会議を活かしながらケアサービスの積極的な取り組みを報告している。なおかつ地域の関係機関との連携を保っている。	市担当者とは、運営推進会議時の他、電話や直接出向いて情報交換を行い、相談をして助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換や事例相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設を自由に出入りできるよう、日中いつも玄関を解放している。外出を察知すると敷地内では見守り、敷地外へは一緒に散歩している。根底にある想いを理解することに努め、心身共に支援している。 内部研修にて身体拘束の内部研修を行っている。身体的拘束だけでなく、拘束は精神的、社会的、施設的に弊害があることを研修にて学び職員間での意識の共有を行っている。	職員はマニュアルをもとに、内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックについては、具体的に言葉かけの違いについてロールプレイングを通して学んでいる。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者等は、職員と一緒に出かけたり、散歩をして気分転換を図るなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気づいた時に職員間でお互いに注意し合い、主任からも指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待、言葉の暴力などにも気を付け、朝礼で注意を払い防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは現在までないが、これからは地域の社会福祉の一員として知識を深め地域に貢献できるようにネットワークを繋いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、疑問が生じないように丁寧に説明し、解約の際には家族等としっかり話し合い退所後も次の支援につながるよう援助している。改定の際には書面にて交付し、運営推進会議や面会時に疑問点がないか確認している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情に関して、管理者及び職員が共有し、皆で話し合い解決をはかっている。	相談、苦情の受付体制を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは運営推進会議時や面会時、電話等で意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。相談や要望は申し送り簿に記録して職員間で共有している。個別ケアに関する相談や要望には、その都度対応している。運営に反映するまでの意見や要望は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや職員会議、個別面談で要望など聞くように努めている。また日々の職員の意見や要望・提案を聞き、運営に反映している。	代表者も出席する月1回の職員会議時や申し送り時、年1回の個別面談時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者や主任は日常業務の中でいつでも意見が言えるように配慮している。職員からはレクリエーションの企画や勤務帯と業務内容の調整、勤務変更等の意見や要望があり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状態をおおむね把握している。意見、要望等ある場合は相談し、就業しやすい環境・条件に努めている。やりがいにつなげる給与水準については整備中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は年間計画を作成し様々な内容の研修を行っている。特にグループワークをつうじて職員の意見が出やすい研修にしている。 外部研修では職員に研修の情報を伝え、勤務の一環として参加している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年度は2名が参加している。受講後は復命書を提出し、職員会議の中で伝達して全員が共有している。内部研修は、年間計画を立てて、主任や副主任が講師となって実施(コミュニケーション、接遇マナー、介護技術、緊急時の夜間対応、認知症、身体拘束・虐待防止、介護保険、防災訓練、高齢者の理解、メンタルヘルスなど)している。研修技法を工夫して、講義法のみではなく、グループワークやロールプレイングなど、討議や実技法を取り入れて考えることや話し合いを行い、研修効果を高めている。接遇は実技法によって成果が上がっている。新人研修は、県主催の初任者研修を受講した後、日々の業務の中で先輩職員から指導を受けて働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国GH協会及び山口県GH協会に属し会員として研修、勉強会などの交流に代表者および職員が参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入する段階で家族からの情報を背景とし、そうする中で本人の話を傾聴して生活状況や想いなど理解に努めている。また不安にならないように積極的に関わり信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申し込みの段階からご家族の想いや不安や困っていることを傾聴している。契約時には事業所が利用者本人と家族の意向に沿ってすべき事、できる事などを話し合っでサービスを導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人と家族の意向に沿い、出来る限り家族の負担にならないよう、他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中での自発的な役割を促し、心身共にADL低下の予防に努めている。またその役割に対し、「ありがとうございます。」や「お疲れ様です。」と感謝の言葉をかけている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を支えていく為、家族とのコミュニケーションを大切にし、本人の想い、家族の願いが結びつくような支援に努めている。また時には家族に支援の協力を求めたり、本人と家族の絆が希薄にならないように考慮している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人が面会に気軽に訪問しやすように配慮している。また郵便や荷物が届いた時には、お礼の手紙や電話を促している。そして人や場所が繰り返し会話の中に出るようしたり、繰り返し一緒に喜びあっている。また時には家族の協力を得て自宅に外泊している。	家族の面会や親戚の人、近所の人、元職場の同僚、同級生、友人、知人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。事業所から、自宅の掃除をするために帰宅したり、敬老会と一緒に参加している他、家族の協力を得て一時帰宅や外泊、馴染みの美容院の利用、馴染みの商店での買物、寺参り、趣味講座への参加、法事や結婚式への出席、敬老会に参加しているなど、これまでの馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、部屋や座席の配置の配慮。関係性が悪化した場合には職員が積極的に関係性の構築を支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても誕生日は花を持ってお見舞いに伺ったり施設での写真のデータを送ったりと関係づくりに努めている。また経過をお聞きし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、意向を伺ったり、過去の暮らしを踏まえて把握に努めている。それらを朝礼や職員会議時に報告したり、申し送りノートに記載し情報共有している。また家族よりその方が入所前にどのような生活を送っていたかを新たな意向に応じて尋ねている。	入居時のセンター方式のシートや「入居申し込み聞き取りシート」を活用している他、日々の関わりの中での利用者の表情や発した言葉、行動、気づきなどを介護支援記録や申し送りノートに記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供や入居時に本人や家族より話を聞き職員ミーティングなどで情報を共有し把握できるようにしている。また、認知予防の回想法を兼ねて尋ねている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方、心身状態、有する力等現状の把握に努め、その都度変化があれば引き継ぎ、現状に応じたケアをしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より本人の想いの把握に努めている。違った支援が必要となった時には、家族の意見を聞き本人の意向に沿った方針のもと、管理者、介護支援専門員、介護、看護それぞれの視点で介護計画を立案している。	計画作成担当者を中心に月1回、カンファレンスを開催し、利用者の思いや家族の意向、主治医、看護師等の意見を参考にして話し合い、職員全員で介護計画を作成している。モニタリングは毎日、目標毎にできているか、できていないかをチェックし、3ヶ月毎にまとめ、6か月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の下、個別の支援記録に日常の様子を細かく記入している。情報の共有については連絡帳にて全職員に伝わるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際に、買い物支援、利用者の自宅に立ち寄りたりしている。また表情や言動から散歩にお連れしたり、常にニーズを察知し、可能な限り柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握、協力体制の構築、活用をはかり、本人の意向や心身の状況、家族の負担や意向などを考慮し、豊かな暮らしが送れるよう取り組んでいる。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医の希望を聞き事業所の協力医のほか本人家族の希望の病院での受診も対応している。定期受診以外は受診結果について家族へ報告している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医としている。定期受診は1ヶ月から2か月に1回実施し、他科受診も含めて家族の協力を得て受診支援をしている。受診後は介護支援記録の医療連携欄に記録し、薬の変更は申し送りノートに記録して職員間で共有している。家族には電話や面会時に口頭で伝えている。看護師による健康管理を行い、健康状態の把握とともに、緊急時には、かかりつけ医や協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師を配備しており協力医院との連絡は密にしておりドクターと気軽に相談できる体制が確保されている。オンコール体制にて対応。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者、家族が安心して治療でき早く退院できるように病院関係者との連携に努めている。退院時にも病院スタッフ、家族、当施設との三者会議にも参加している。支援介護計画の情報も病院と連携が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化の指針について説明している。重度化の場合、ご家族を話しあい、利用者やそのご家族にとってよりよい支援を決定している。必要に応じて他の施設や病院と連携している。	契約時に指針に基づいて事業所のできる対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の意向を聞き、主治医、看護師等、関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットは朝礼時に報告を行い職員間での情報共有をしている。そして必要に応じて速やかに予防措置を講じている。 他には消防署の指導による心肺蘇生法やAEDの訓練を行いその後も職員会議で定期的に心肺蘇生法の研修や症状別の研修を実施している。	事例が生じた場合、ヒヤリハットした内容は、朝礼時に主任に報告し、事故は、その日勤務の職員が事故報告書に発生状況と対応、分析、予防策を記録して回覧して共有している。月1回の職員会議で再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。消防署の協力を得て救急救命法やAEDの使用法の研修を実施し、内部研修で夜間緊急時の対応や感染症対策を実施しているが、全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練に取り組んでいるとは言えない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を頂き避難訓練、火災訓練を実施。地域の協力もあり緊急時に駐車場の確保もできている。	年1回、消防署の協力を得て、夜間の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用方法を利用者も参加して実施している他、事業所のみで風水害を想定した避難訓練を年1回実施している。地域の協力を得て災害、緊急時の職員駐車場の確保ができているが、訓練への参加者はなく、地域との協力体制を築くまでには至っていない。非常用食品としての食糧や水を備蓄している。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、自尊心を傷付けないよう声かけに配慮した対応に努めている。 また内部研修にて接遇やプライバシー保護について研修を実施している。利用者だけでなくご家族、同僚への接遇研修も行っている。	職員は内部研修(接遇、プライバシー)で具体的な場面を展開しながら、討議や実技を通して学んでいる。家族と接するように、自然体で親しみを込めながらも、人生の先輩として尊敬の念を忘れず、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者や主任が注意している。個人記録の取り扱いには留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めつけず日常的に自己決定できるようにゆったりと個別の対応を心掛け本人の思いや希望に耳を傾けるように支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを優先し、ご自身のペースで一日を過ごしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容院を利用している。美容院へ行きたい方は、送迎のある美容院も利用しており、その日の体調や行事に合わせてその方らしいお洒落ができるよう支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に何が食べたいか、常に問いかけ極力提供するように心がけている。また食材の皮むきや盛り付け、配・下膳をできる方に行っていただいている。	三食とも法人からの配食を利用している。法人厨房に利用者の好みを伝えて献立づくりに役立ててもらい、食器や形態の工夫をして提供している。利用者はテーブルを拭く、お茶汲み、盛り付け、配膳、下膳、食事の挨拶、おしぼりをたたむ、食器洗い、おやつづくりや保存食づくりの下ごしらえなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルについて、献立の話などをしながら、一緒に食事をしている。月2回のおやつづくり(たこ焼き、ホットケーキ、焼芋等)やケーキの付く誕生日食、季節感を大切にした季節行事食(おせち料理、節句の寿司、ソーメン流し、栗ごはん、年越しそば)、保存食作り(干し柿、切り干し大根)、家族との外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランス、水分量など利用者の状態に合わせて支援している。体調不良時や食事量が少ない利用者に関しては個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの身体機能や認知度に応じて口腔ケアをしている。また口腔ケアの大切さについて皆が認識するように日々促している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンの把握や声掛けを行っている。立位困難な利用者の方でもオムツを使用しないで職員2人対応でトイレへの誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。立位困難な利用者にも介助者を増やしてトイレでの排泄を促すなど、利用者が気持ちよく排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量、水分量、運動量、薬の副作用、排泄物の状況を考慮し、下剤に頼らずに飲食、運動からアプローチをかけ取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望やタイミング、体調や皮膚の状況を考慮し個別に支援している。入浴を嫌がる方については、無理強ひなくスムーズに入浴されるよう支援している。	入浴は毎日、9時30分から11時30分までの間と、13時30分から16時までの可能で、入浴時間や順番、湯加減、本人持参の石鹸使用、季節の柚子湯等、利用者の好みに応じて、ゆったりとくつろいだ入浴ができるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、順番や入浴時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じて無理なく落ち着いて暮らせるよう支援している。安眠できない場合、それが病気からくるものか生活習慣からくるものか検討し、アプローチをかけた安眠できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について理解し、またすぐに確認できるようにしている。服薬、症状の変化についても看護師より伝えられ、介護士と看護師が共に症状の変化を常に見て医師への伝達も行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの機能ややりがい、嗜好、楽しみの把握に努め、活躍ができるような場面をつくっている。	雑巾で拭き掃除やモップや箒で廊下や床を掃く、新聞を取りに行く、花を生ける、花瓶の水を換える、カーテンの開閉、布団を干す、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を居室に持ち帰り収納、食事の下ごしらえ、テーブル拭き、盛り付け、配膳、下膳、食事の挨拶、お茶汲み、食器洗い、おしぼりをたたむ、おやつづくり、保存食づくり、畑作り(花を植える、草取り、水やり)、新聞を読む、テレビ視聴、歌を歌う、ぬり絵、習字、折り紙、壁面工作、トランプ、お手玉、双六、パズル、風船バレー、ボーリング、ラジオ体操、テレビ体操、パタカラ体操、ケアビックス体操、歩行訓練、散歩、外出、ボランティア(フォークギター、楽器演奏、抹茶、法話)との交流など、利用者のやりたいこと、好きなことを把握して、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や利用者の状態や希望、季節や地域のその時の状況に応じて外出を楽しめるよう、草取り、買い物、散歩、四季の花見、寺参り、ドライブなど戸外に出かけられるよう支援している。	日光浴や散歩、買物、畑仕事(苗植え、草取り、水やり)、季節の花見(桜、菖蒲、紫陽花、紅葉)、ドライブ(自宅周辺、角島大橋、海や夕日を見る)、寺参り、初詣、公民館祭り、福祉祭りに出かけている他、家族の協力を得て外出(商店での買物、美容院の利用)、外食、外泊、墓参り、寺参り、敬老会、結婚式や法事への出席等、一人ひとりの希望に添って出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の要望により自己管理の範囲で所持している方はいらっしゃる。買い物については受診の際、近くのスーパーで買い物できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や縁者、友達と、関係が希薄にならないように、郵便があるときはお礼の電話や手紙を書くように促したりそれにかかる支援を積極的にしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や、壁画、装飾、カレンダーで季節感をかんじとれるようにしている。光はその場面の利用者の心情を考慮し調整している。温度、湿度は健康面と精神面を考えて一定の基準の下調整している。	リビングは中庭や高い天井からの採光で明るい。廊下には季節の花を飾り、室内には丸テーブルや椅子、テレビの前にはソファを配置し、畳コーナーの利用等、利用者が思い思いの場所で和やかに過ごせるように工夫している。対面式の台所では、利用者と職員が会話をしながら、食事の準備や後片付け、おやつづくりなどを行っている。壁面には絵画や習字、季節の貼り絵、カレンダーを飾り、季節を感じる事ができる。温度、湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファー、と配置の空間を工夫することで、気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、一人のんびりと過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物、本人・家族との写真などを飾り、本人が生活しやすく、自分の部屋と認識して落ち着けるようにしている。また自分の部屋を迷わないよう、認知度を考慮し極力部屋の配置換えしないに対応している。	小タンス、衣装ケース、ハンガー、パイプスタンド、寝具、衣類、テレビ、時計、位牌、携帯電話、洗面用具、化粧品等整容道具、新聞、ぬり絵道具、造花等使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族写真やカレンダー、クリスマスカード、手づくり作品を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は入り口からバリアフリー化し、廊下には手すりがあるなど安全な環境づくりの中で、自立した生活が送れるように工夫している。また自室が判断できるように自分で表札や花を付けている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 (NPO)グループホームひまわり

作成日: 平成 30 年 7 月 17 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議を活かす工夫	運営推進会議の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議の在り方について再考察する</li> <li>・運営推進会議に多くの方へ出席していただくように招待する。</li> </ul>	一年
2	36	地域との協力体制の構築	災害時の協力体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会長等、地域を代表する方との協力体制の協議や訓練等への参加への招待。</li> </ul>	一年
3	35	全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	定期的訓練の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の協力を得て、応急手当の訓練の継続</li> <li>・現在入所している利用者が必要とされるような応急手当の方法の研修</li> </ul>	一年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。